

2024 年度 第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2025 年 1 月 30 日 (木)16:00~17:10

全体

Q: 3Q 決算の社内計画比は。

A:

- ・為替影響を含めて、2 桁億円の増収、2 桁億円の増益。セグメント別には、インダストリーは下振れ、その他のセグメントは増収増益。
- ・為替影響を除くと、売上高は減収、営業利益は 2 桁億円の不振。

Q: 通期業績予想(1/30)に対する不振、不振リスクは。

A:

- ・コンポーネントは低調に推移しており、エネルギーの器具やインダストリーの FA は保守的に見ている。食品流通は不振を期待している。

Q: 来期業績の見通しは。

A:

- ・エネルギー、インダストリーのプラントシステムは、好調な受注が継続する見通し。一方、コンポーネントは、FA と器具は横ばいで後半には回復する見通し。半導体の電装は、EV 需要の先行きが不透明であり今期を下回る見通し。食品流通は、今期の改刷特需の反動減に対して新製品でのカバーを検討している。全体では、プラントシステムがコンポーネントを補う計画を検討している。

エネルギー／インダストリー

Q: トランプ政権のエネルギー政策が富士電機に与える影響は。

A:

- ・エネルギーは、米国向けに地熱発電を中心に展開しているが、現時点で特に影響はない。
- ・インダストリーは、オイル&ガス分野への投資が活性化する可能性が高い。当社は、米国での石油採掘用に低圧インバータを多く販売してきており、今後の需要増に期待している。新規の事業機会としては石油の長距離搬送用に高圧インバータの採用を目指し、12 月から新規案件獲得に向けて取り組んでいる。

エネルギー

Q: 施設・電源システムのデータセンター向けの年間受注見通しは。中期経営計画での受注見通しから変化はあるか。

A:

- ・年間受注高は、対前年 50%増の見通し。国内は対前年 10%増、海外は対前年ほぼ倍増する見通し。2025 年度、2026 年度の売上に貢献する案件になる。また、今期受注のうち、来期売上高への貢献は約半分程度の見通し。

- ・中期経営計画の受注計画に対し、国内は若干出遅れている一方、海外は想定以上に伸長しており、2026 年度計画を今期前倒しで達成できる見通し。地域別では、シンガポールの伸長は弱いものの全体に占める比率が高く、マレーシアやオーストラリアでは案件が増加している。

Q: データセンター向けのバックアップ電源として、競合他社の製品と富士電機の UPS とのすみ分けや競合の変化は。

A:

- ・当社は大容量 UPS を得意としており、現時点で影響はない。

インダストリー

Q: 2024 年度通期業績予想を前回開示(10/31)から下方修正した理由は。上振れ余地はあるのか。

A:

- ・オートメーション分野における低圧インバータの需要回復遅れ継続により下方修正した。低圧インバータの 4Q は高水準な前年度売上に対して高い目標をたてたものの、顧客の在庫調整が 4Q も継続する見通しであり、社内および市中在庫の適正化に向けた当社の生産調整を織り込む保守的な目標としている。
- ・顧客によっては、適正在庫水準を引き上げる可能性があり、その際は上振れにつながる。

Q: DX ソリューションや設備工事の 2024 年度通期業績は、前回開示(10/31)から変更あるか。

A:

- ・変更はない。

Q: 営業利益の 4Q 偏重を改善するための施策は。

A:

- ・低圧インバータの前年度 4Q は先行発注分を多く出荷した影響により売上が高くなった影響がある。
- ・4Q 偏重は課題と認識しており、今期は改善に向けてサービス売上の平準化(前倒し)を実施している。来年度も改善に取り組んでいく。

半導体

Q: 3Q 累計売上高の地域別増減要因は。

A:

- ・中国は、太陽光などの再エネ向け需要増により増収。
- ・アジア他、欧州は、欧米の電装向け需要減により減収。

Q: 中国ローカルメーカーが技術力を向上させるなか、再エネ向け売上高が伸長する要因は。また、今後、価格競争に巻き込まれないための戦略は。

A:

- ・プラント案件は製品の高い品質・信頼性が求められる。中国大手メーカーにも当社製品が受け入れられている。性能・信頼性を含めた競争優位性を維持・強化していきたい。

Q: 産業分野の 3Q 受注が対 2Q で 22%増となった要因は。また、4Q および来期の受注見通しは。

A:

- ・3Q 対 2Q の増加は為替影響。

- ・4Q は対 3Q で FA 向け需要回復遅れおよび中国春節影響により、為替影響を除いても若干減少する見通し。
- ・来期は再エネ向けが堅調に推移し、FA 向けは下期からの需要回復見通しにより、対前年で若干増加する見通し。

Q: 電装分野の 4Q・下期および来期の受注見通しは。

A:

- ・為替影響を除くと 4Q は対 3Q で 34%増、下期は対上期で 25%程度増の見通し。欧米顧客の需要減に対する 4Q での販売価格改定などにより増加する見通し。
- ・来期は欧米顧客のモデルチェンジに伴う端境期となり、米国の EV 促進策廃止など EV 需要回復は期待できず、楽観視できない状況。
- ・国内 HEV 向けは来期対前年で若干増加すると見ているが、詳細はこれから顧客と詰めていく。

Q: 電装分野の一部顧客との販売価格改定による半導体全体の利益率への影響は。

A:

- ・価格改定を除く実力値は数%下がる程度。

Q: 今期業績予想を下方修正した要因は。

A:

- ・欧米顧客の EV 向けの需要が想定より悪化したことが要因。

Q: 来期の利益率の見通しは。

A:

- ・来期も需要は弱く、売上高増は期待できない。また、資本費も増えると見ており、利益率維持は厳しい状況になると考えている。市況・需要に合わせて設備投資のタイミングを精査する等、利益率の維持に努めたい。

Q: 電装分野の今後の事業戦略は。

A:

- ・EV の需要は足元で鈍化しているものの、長期的には電動化が進むと見ており、戦略の大きな方向性は変わらない。

Q: 在庫状況は。

A:

- ・電装分野の需要減に伴い在庫は 3Q 末時点で若干増えたものの、4Q に生産調整を行い在庫に大きな過剰感がないように進める。

Q: 富士電機津軽セミコンダクタの SiC 生産ラインの稼働状況は。

A:

- ・12 月から一部供給を開始しており、稼働率は生産能力に対して 3 割程度。

以 上